

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

6月14日
第2聖日
第3408号

「福音に仕える」

聖
言

私は、神の力の働きにより、自分に与えられた神の恵みの賜物によって、この福音に仕える者とされました。エペソ3:7

礼拝の恵み 第二〇章
第八部 礼拝の障害
第四節 怠慢

今日の生活は、その速度がどんどん増大してゆく、仕事と家庭の義務とはますます多くの時間を信者から要求する。十分と、クリスチャンはたちまち、俗事が聖事を押しつけてしまうことを知るであろう。それゆえに信者は、自分の敬虔な私生活を涵養するために時間を作り、また時間をとらなければならぬ。ふだんより三〇分だけ早く起きる必要もできよう。その時間を、聖書を組織的に読んだり、黙想したり研究したり、祈ったりするのに使うためである。この時間を信者は厳守し、仕事や家事のために犯されないようにし、それを全く主にささげなければならぬ。霊の怠惰は泥棒と同じものと見なければならぬ。神にささげらるべき礼拝を盗んでしまうからである。どの信者を魂をいましめる必要がある。「あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じたときよりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武器を着けようではないか」(ローマー三ノ一一、一二)。それゆえ、もしもわれわれの礼拝が本来あるべき姿にあるためには、闇の惰眠性ではなくて、その代わりに霊の覚醒があらわれなければならない。

(「礼拝」ギブス)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年六月七日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「現世の喜び、来世の希望」

「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみなねむってしまうのではなく、みなかえられるのです。終りのラッパとともに、たちまち、一瞬のうち입니다。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、わたしたちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければなりませんからです。しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、『死は勝利にのまれた。』しるされている、みことばが実現します。『死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。』死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによつて、私たちに勝利を与えてくださいました。」

(一コリント一五章五一〜五七節)

今日は第四回の合同召天記念日です。先に召された方を偲びつつ天と地の礼拝をともに行いたい。現世に絶対というものはない。唯一死ぬことは絶対確実である。しかし、高齢であつても人は死ぬけど自分は死なないと杲然とおもう。輪廻説では来世と現世が繰り返し、別の教えでは死は怖いものでなく、自然の営みだと考えている。聖書ではラッパの音で栄光の体に化せられるのである。そのような希望を与えられているクリスチャンは現世においても神の祝福に満ち溢れている。

二〇一五年六月一〇日午後七時 祈祷会 山本牧師

「枯れた骨」

「主の御手が私の上であり、主の霊によつて、私は連れ出され、谷間の真中に置かれた。そこには骨が満ちていた。主は私にその上をあらちらと行き巡らせた。なんと、その谷間には非常に多くの骨があり、ひどく干からびていた。主は私に仰せられた。「人の子よ。これらの骨は生き返ることができようか。」私は答えた。「神。主よ。あなたがご存じです。」主は私に仰せられた。「これらの骨に預言して言え。干からびた骨よ。主のこゝばを聞け。」(エゼキエル三七ノ一〜四)

人はうわべも見ろが、神は内を見る。神の見かたと人の見方は違う。神は人間を枯れた骨と見る。骨には命はない。塵である。しかし、神は命の息を吹き込むと生きるのである。主は聖霊を吹きこんで、霊的に生きる者としてくださる。

仮庵聖会

「再臨と聖潔」(一テサロニケ)

日時 八月一四日(金)